

神戸市PTA協議会主催 研修専門委員会:企画運営
令和元年度「5校種合同研修会」



大人のどうとく (令和編)

令和時代！子供たちの笑顔のために、あふれる愛を

日時 令和2年2月12日(水) 10:00~11:30(受付9:30~)
会場 (開会式)神戸市総合教育センター 10階ホール

司会：研修専門委員長 石下 敏久・進行説明：永元 和彦・記録：副委員長 三間 由香

◆開会式 10:00~ 会長あいさつ 神戸市PTA協議会 会長 三浦 国英
来賓あいさつ 神戸市教育委員会事務局 学校教育課担当課長 中井 伸夫 様

◆分科会 10:30~11:30 (各分科会場にて終了)

第1分科会【PTA一緒に楽しみませんか?】～縦、横の繋がり広げませんか～
PTAは大変?つらい?本当はどう? 時代に合ったPTAを一緒に考えましょう。

第2分科会【不登校】～聞いて 聞かせて「未」登校～
不登校について色々な考え方、捉え方、親同士ディスカッションしましょう

第3分科会【SNSとの関わり方】～スマホは「悪」なのか!?～
保護者の悩みSNS。皆さんの対策、意見聞いてみませんか。

第4分科会【令和時代の最新防災準備】～知っているだけで助かる命を共有しよう～
神戸市の防災や、避難場所について。そして地域とのつながりへ・・・!!

第5分科会【大人のどうとく】～子どものお手本になる大人になれていますか?～
この行動はどうとくに反してる? 反してない? 皆さんでお話ししましょう♪

6年前から市P協が掲げるテーマを、
新たな時代に即した5つの課題で掘り下げる。
5校種PTA会員同士、区や校種を超え、
情報交換しながら、学び合い、気づき合う。

神戸市PTA協議会だからこそなし得る、
全員参加型のしゃべる研修会をご提供します。
研修専門委員会が、案内役となり、
PTAからPTAへ発信していきたいと考えます。
ぜひ多数ご参加ください。

◆◆◆◆ 分科会場 ◆◆◆◆

第1分科会. KEC【703】
第2分科会. KEC【605】
第3分科会. KEC【702】
第4分科会. KEC【706】
第5分科会. KEC【601】

託児・・・KEC【705】 ※事前申し込みされた方で、研修時間(前後15分程度含む)のみ

お問合せ 神戸市PTA協議会事務局 (078) 360-3453 平日9時~5時



第1分科会

担当者【運営責任者】 黄 偉倫 【記録者】 藤本 香織
【スタッフ】 齋藤 勝洋、竹田 育徳

テーマ「PTA一緒に楽しみませんか？」(参加者数約) 28人

運営方法(進め方: 5グループ(5~6名)に分かれグループディスカッションし、)その後、グループごとに内容を報告してもらう。

報告内容 課題 参加者の意見・運営者の感想等

PTA活動は(役員になると)大変なこと、苦戦することが多い。

子供のためにすることなのに、なぜしんどいのか?

- ・ 役員の選出自体がしんどい。(手を上げてくれる人が少ない。敬遠される)
- ・ 一度なると、後継者を見つけるまでのられないケースも。
任期が長い ⇒ 負担が大きい ⇒ 敬遠
- ・ くじ引きなどで選ばれるとモチベーションも低く、消極的な人が多い。
- ・ 人間関係のもつれが出やすい。
- ・ 自分の時間を犠牲にしての活動 → どう捉えるか？。

PTA役員をしてみても良かったこと

- ・ 先生と関わることが多く、学校を身近に感じられる。
- ・ 子供の様子や学校の雰囲気を感じられる。
- ・ 役員同士のコミュニケーションが深まり、自分の世界が広がる。

PTAを楽しむためには、

- ・ 無理のない活動にすることが大切。
- ・ PTA活動のスリム化。PTA=子供のための活動というスタンスを大切にし、簡素化できるところは簡素化していく。
- ・ 先生方も働き方改革 ⇒ PTA役員にも働き方改革が必要。
- ・ 役に対して人員を配置していくのではなく、ひとつひとつの活動に対してボランティアを募る方法もあり。
(例) ベルマーク運動をしてくれる人を募集→人員が集まらなければ活動自体を見直し、やめることも視野に入れた改革を。
- ・ 男性(お父さん)がもっと参加してくれると、もっと良い活動になるのでは?
有休がある場合は休みが取りやすい? 社会に出ている経験を生かしてもらう。
- ・ PTAを楽しくするのも、つらくするのも人間関係。
- ・ PTAは自分の時間を犠牲にして行う活動だからこそ、子どものため、また自分のためにも有意義なものだと思えるようにすることが大切。
意識の持ち方次第で感じ方が変わるのではないか。
- ・ まずは、手をあげてもらえるようなPTAに。良いことを発信していくことが大事。

第2分科会

担当者【運営責任者】田井 【記録者】北原 【スタッフ】池田、奥

テーマ “不登校～聞いて聞かせて「未登校」

～おうちの中の笑顔の花をたくさん咲かせましょう～

“不登校について色々な考え方、捉え方、親同士ディスカッションしましょう”

(参加者数) 40名

運営方法

【着席】自由、個人を特定しない(名札なし、無記名)

【開会】はじめのあいさつ(奥)

・スタッフ紹介

・なぜこのテーマにしたか

・ねらい：解決ではない、少しでも参考になれば、道筋が立てられたらと思う

・流れ：時間配分、思いを話す、付箋に書く、共有する

・ルール：批判しない、個人的なことをSNSにあげない

【はじめに】親の関わり方、学校との関わり方、PTA、仕事、地域・・・(田井)

【意見交換】①付箋に「聞いて欲しいこと、聞きたいこと」を書いてもらう→共有

②付箋に「今日の感想」を書いてもらう

【閉会】あいさつ(奥)”

準備 【貸出品】付箋100、A4用紙30、えんぴつ30+持ち込み10、消しゴム5、テープ1

【レイアウト】605号室

報告内容 課題 参加者の意見・運営者の感想等

内容 【スタッフの話】

- ・保護者へのケアが遅れている
- ・生活の基本「衣食住」を整える、体を清潔にを気をつけていた
- ・なかなか外に出にくい、夜に週1日だけはと散歩をしていた
- ・原因は人によって様々
- ・母親は子どもにごめんねと思うがお母さんだけのせいではない、学校や父親も関係している
- ・子どもが欠席していても学校へなるべく出向き学校とやりとりを続ける
- ・学校には必ずしも行かないでいいのではないか
- ・お母さんはあなたを認めているという姿勢を、子どもの前では口角をあげて
- ・学校との情報交換は必要だがその家庭に合ったやり方を
- ・周囲の人の理解を得るのに時間がかかる

【①参加者より：聞いてみたいこと】

- ・学校の対応が知りたい
- ・学校に行かないとどうなるのか、勉強は？
- ・小学校と中学校の対応の差が大きい

- ・子どもの支えになるものが知りたい：情報交換ツールやゲーム
- ・親としてできることは
- ・周囲からの理解を得るための工夫
- ・行政の対応は
- ・不登校児とのつきあい方
- ・どうやったら笑っていけるか

【参加者よりお話】

- ・子どものために
 - くすのき教室、移動式の寺子屋、フリースクールなどもあり
 - 「朝起きて好きな服を着てどこかへ出かける」という生活リズムを整えるのが我が子にはよかったようだ
 - 家は子どもがくつろげる場所であってほしい
- ・子どもは必ず自分で立ち上がる力を持っている、時期が来るのを待つ
- ・子どもを信じるのは難しいことだが見守り続ける
- ・学習障害：塾へも何が得意が不得意なのかを伝えてフォローをしてもらえる
- ・安心して学校へ行って欲しい→先生や友達、保護者との関係を作って欲しい
- ・情報交換の場が必要

【②参加者より：感想】

- ・沢山の当事者がおられて共有できた
- ・いろんな話が聞かれて良かった
- ・子どもを信じて待てば良いと分かって安心できた
- ・子どもが苦しむのはつらい
- ・休むことも大事だと分かり気が楽になった
- ・苦しい時間を過ごした方が、今は笑顔で話される姿を見られて勇気づけられた
- ・母のメンタルサポートが必要だ
- ・PTA本部で相談を受けても今までは迷いがあったが少し話ができそうだ
- ・今日帰ったら笑顔で子どもに「おかえり」と言ってやりたい
- ・このような会が時々あってほしい
- ・母として子どもの味方でいたいと思えた
- ・もう少し明るい光が感じられる会が良い
- ・障害の話をもっと少し聞いてみたかった
- ・経験談だけでなく、情報をもっとほしかった
- ・デリケートな話は共有するのは難しい
- ・働き方改革も分かるがもう少し困っている子に目を向けてほしい

【スタッフ感想】

- ・時間をかけて話し合いを重ねて当日を迎え、参加者本意の会になったのでは
- ・経験がなく専門家でもないため、参加者に失礼があるのではないかと不安に感じた

- ・体験された方の話を直接聞くことができ貴重な時間を共有し続けることができた
- ・いろいろな情報やメディアに目が向くようになった
- ・委員を務めることで子どもの学年を超えた学校も年齢も違う良い仲間ができ、とても有意義な一年間を過ごすことができたと感じる

【課題】

- ・デリケートなテーマを設定する場合はいろんな場面を想定しておいた方が良い
- ・今後もこのように自由に話ができる場が必要ではないかと強く感じた
- ・参加者の中には深刻な方もおられたはずで、「解決にはならないが共有できたら」と前もって伝えられていたらと思った
- ・参加者が増え、椅子も机も追加し部屋が狭くなり申し訳なかったが、声はよく届きこぢんまりと進行できた

テーマ：SNSとの関わり方～スマホは「悪」なのか！？～ 参加者数 53名

運営方法（進め方）

グループディスカッション、グループごとに発表

報告内容・課題 参加者意見・運営者の感想等

- (1) 校種別に7～8名のグループに分かれて、リーダー、記録発表係を決めてもらう。
- (2) 付箋にそれぞれの悩みを書いて、それに対して意見を出し合ってもらおう。
- (3) 悩みがなければ、スマホの良い所悪い所を書いてもらう。

（参加者の発表内容）

幼稚園～小学校低学年の保護者のグループ

- ・ まだスマホを持たせてない親が多い
- ・ いつからスマホを持たせるべきか
- ・ 持たせる場合は親の管理が必要
- ・ コミュニケーション能力が落ちるのが心配
- ・ 良い所はGPSがついて安心感があること。
- ・ 子供と連絡がとりやすい便利なツール
- ・ 部活やクラスの連絡をとるのに使用している
- ・ SNSは犯罪に直結する危険がある
- 大切な事はスマホを持つことが前提になっている時代ということを理解する。
- ・ 子供が小さいうちから危険性を教えておく

小学校低学年～中学生の保護者のグループ

- ・ 持っていない人→ いつ持たせたらいいか・ルールはどうすべきか。
- ・ 持っている人→ 家族間や部活の連絡には便利。
トラブルも多い
親の知識が不足している・子供の方が詳しい。
制限をかけても、子供はいくらでもぬけ道を知っている。
- ・ 持たせるタイミングはできるだけ遅い方がよい。
- ・ 最初のルール決めが肝心

小学校高学年の保護者のグループ

- ・ やりすぎたら親が一度預かる →部活での連絡がとれない。安否確認ができない。
- ・ 自分で管理させた方がよい。
- ・ iPhoneは子供のスマホと親のスマホもタグ付けできる→子供が何を検索したか、何に興味があるのかを知っておく。

- ・ 持たさないという選択肢はない。
- ・ スマホと上手に付き合わせる事が大事。

小学校高年～高校生の保護者のグループ。

- ・ 使い出したらずっと画面を見ている。
- ・ 友達との連絡手段がほとんどLINEになっている現状。
- ・ 男女で興味のある分野がちがう。
- ・ 男の子 → ゲーム、画面
- ・ 女の子 → LINE、インスタグラム、動画、TikTok
- ・ 各家庭でルールを求める事が大事。

中学生～高校生の保護者のグループ

- ・ 殺人ゲームが流行っている → モンスターならまだしも、人を殺すゲームは如何なものか。
- ・ 課金について → 子供名義だと課金できない
- ・ LINEのステータスメッセージで、自分の子どもの心境を知ることが出来る場合もある。
- ・ 親がどうこう言うより、子供自身が危特感を持たないと離れられない
- ・ 親が出来ることは制限をかけること。
- ・ 色んな知識を得たいが、機会が少ない。
- ・ 子どもを信頼するしかない、会話のキャッチボールを重ねて信頼関係を作っていく。

【運営者の感想】

初対面にもかかわらず、各グループ盛り上がりお話をされていたのが印象的でした。とても有意義な意見交換の時間になりました。

第4分科会

分科会担当者 [運営責任者] 扶川 [記録者] 下村
[スタッフ] 石下、永元

テーマ： 「令和時代の最新防災準備」 参加者数： 27人

運営方法： グループディスカッション

～報告内容・課題・参加者意見・運営者の感想等～

SONAE to U KOBE 防災ポータルサイトを使用しての説明

(災害(地震、津波、台風等)への備えにつながる情報を発信)

過去の災害の振り返り

阪神淡路大震災・東日本大震災・台風

SONAE to U KOBE とは?

・備える、活動する、振り返る、学習する～4つに分かれている

◎4割ぐらいの神戸市民しか阪神淡路大震災を経験していない時代になった今、
もう一度防災について考えてみましょう。

・災害に備えよう!でも何を備えよう?

家庭内備蓄は3日分(普段家庭で使っている物を準備、忘れがちなものがある)

・赤ちゃんの必需品・ペットの必需品、等

◎防災散歩(避難所までの道をお子様と散歩)

グループディスカッション後のグループ発表

・ミマモルメの発信があるが、もっと詳しく知りたい。

・避難所の空くタイミングを知りたい。

・今の子供は公衆電話の使い方を知らないから教えておくべき。

・家族で年1回は話し合う。

・ラップ、ラジオ、充電器、スリッパ、お風呂の水を次の沸かすまで置いておく。

普段食べる缶詰を少し多めに買い置き(無駄にならない)

・1つの部屋で家族が寝る。

※HP、アプリを一度ご覧になって、もしもの時の為に備えて下さい!

神戸は山もあり海もある 住んでいる地域によっての備えが必要。

運営者の感想等

・スマホの普及により、25年前の震災時より多くの情報を得られるようになっていきます。

そこで近年多発している自然災害に対応できるよう「令和時代の最新防災準備」として紹介しました。

- ・ディスカッションでは「備え」について意見を出し合ってもらい、避難のタイミング、避難グッズ、避難場所についてなど今後の為になる多くの意見を挙げて頂きました。
- ・私自身、防災に対する「備え」ができていなかったため、この研修会の準備をする中で勉強になる事が多くあり、良い経験をさせて頂きました。ありがとうございました。
- ・今、SNSが普及され、誤った情報などに惑わされたりしますが、今回、サイト名を教えてくださいました。

第5分科会

分科会担当者 【運営責任者】 川崎 亜矢子（有野北中）

【記録】坂本 紋子（舞子中）

【スタッフ】山澤 寛子（本山第三小） 田淵 宏明（谷上小）

テーマ「大人のどうとく」～子どものお手本にいる大人になれていますか？

参加者数（47人）

運営方法：シール名札に名前・学校の学年を記入してもらい、胸に貼る。

自由に8グループ（5～6名）に分かれ、グループディスカッション。

各テーブルに置いた模造紙に、自分の意見を書いた付箋を貼っていく。

意見が出終わったら他のテーブルの模造紙を回していき、それについてグループでディスカッションする。

【内容】

付箋に寄せられた意見は、各テーブル共通の話題が多く、「どうとくに欠けたふるまい」についての意見が大半を占めていた。

- ・撮影禁止の行事なのに撮影する人がいる。
- ・授業参観での私語や写真撮影
- ・信号無視して、横断道を渡る大人。
- ・ペットの散歩のフンの後始末（をしない）
- ・エレベーターに乗る人がいるのに「開」ボタンを押さない人といった社会生活でのもの。

それに対し、

- ・近所のおばあちゃんが子供たちにいつもあいさつをしていた。
- ・近所のおじいちゃんが、すすんで道路の掃除をしていた。など、年長者のふるまいに敬意を持つ声も。（その逆もあり）

また個人のふるまいだけでなく

- ・子供のスマホや財布をチェックする。
- ・子の帰宅時間の差。といった、個人の裁量の違いも関心あるテーマであることが見受けられた。
- ・学校の先生の言動・行動について不安がある。
- ・どうして楽しい行事が少なくなるの？大きな変革の最中にある学校に対しても道徳観を育む、「ひとつの場」としての要望もあった。

【反省】

それぞれの子供の学年がわかれば、会話に共通点が生まれるのでは？とのアイデアから、名札としてタックシールを用意したが、記入に時間がかかってしまい着席に時間がかかった。また粘着力が弱かったため、テーブルに貼る参加者もいた。

「大人のどうとく」という広義なテーマだったため、何から話すべきか迷っているテーブルもありスタッフがフォローに当たった。

- ・会話が盛り上がるなかでの付箋記入は難しかったかもしれない。
- ・当初、各テーブルの模造紙が全テーブルへわたるよう、3分おきに回す予定だったが、話が弾んでいる。様子だったので、中断しないように数回だけ回した。

【総括】

どのテーブルも共通の話題が多く上がっており、マナーの善し悪しについて共通の認識を持っているという印象を受けた。

また限られた時間でのディスカッションだったため、各班の発表はせず、模造紙の交換をすることにしたが、その結果、会話が途切れることなく盛り上がっている様子だった。

中には連絡先の交換をされている参加者もあり、スタッフ一同、嬉しく思った。

反省点もあるが予想していた以上の盛り上がりで、結果には大変満足している。